



「種子の旅」 その3 植物はどうやってひろがる?!

水によって運ばれる種子

水の力で運ばれる果実や種子には、雨水や川の流れ・海の流れなどの力で運ばれるものがあります。特徴として、種子をおおっている皮が厚く、空気を多く含んだスポンジのようなつくりになっているものがあります。これで全体の重さの割合が軽くなって、水の流に乗りやすく、岸に打ち寄せられやすくなるようです。

主な果実ではアダンやヤシ類・サガリバナ・モモタマナなど、種子ではハマオモトなどがあります。また、アダンの果実は、外側がオレンジ色の甘い果肉になっているので、動物が食べることで広がってまいるようです。

ちなみに、道路や公園の街路樹など、アダンの実がなっているようすを見て、「パイナップルがなっている」とかんちがいする人もときどきいるようですが、皆さんは区別がついていますか？

動けない植物が移動できるチャンスは、花粉を出す時と種子をつくる時の2回。子孫の

移動のために、じつに様々なしくみを持っているのですね。(文責：玉村かおり)



清水小のモモタマナ



モモタマナの実



熟したモモタマナの実



アダン



アダンの実

アダン